

令和5年度 第1回愛知県生涯学習審議会社会教育分科会会議録

1 開催期日

令和5年10月30日（月） 午前11時15分から午後0時10分まで

2 場 所

愛知県庁西庁舎9階教育委員会室

3 出席した委員 計6名

岡本 竜生、高橋 勝巳、益川 浩一（分科会長）、宮崎 初美、山内 晴雄
吉田 真人

4 欠席した委員 計4名

池田 紀代美、大石 益美、立川 恵理、山田 久子

5 会議に付した事項

○ 議題

「社会教育委員 活動の手引き」の作成について

6 議事の経過

○ 会議録署名人の指名

分科会長から宮崎委員と山内委員を署名人に指名

○ 議題「社会教育委員 活動の手引き」の作成について

事務局から「社会教育委員 活動の手引き」の構成と内容について説明

高橋委員： 手引きとして非常に素晴らしいと思う。文章が多いので、見開きで、社会教育委員としてあるべき姿や今後のビジョン等が示されると、よりよいものになると思う。後段には問いかけ等もあり、初めて見る方にとって勉強になることが多々ある。概観して全体が分かるもの、どういう構成で何ページを見ればよいか等が分かるものであれば、見る人に寄り添うことができると思う。

益川会長： これだけ文字が多いので、同じような印象をもつ社会教育委員もいると思う。

事務局： 第1回ワーキンググループでも、同じような御意見をいただいた。そこで、2ページに「社会教育委員のアラカルト」というページを付け加えた。今、いただいた御意見を生かしていきたい。

益川会長： 社会教育委員には、ベテランの方もいれば新しくなられた方もいるので、誰をターゲットにするとよいかはなかなか難しい。社会教育委員に活用してもらうためには、最初に、一目見て分かる羅針盤となるような概要をまとめたものがあるとよい。これだけの文量になると、最初から読み進めていくのは難しく、拒否反応が出る可能性もある。社会教育委員が身近に感じられるようなものであることが大切である。最後のところで学んだことを振り返るページがあるので、今後自分たちがどうしていくとよいかとい

う点については、考えられるようになっている。

岡本委員： 読んでもらい、使ってもらわなければ意味がない。ボリュームが多く、読み進めていくのはかなり大変である。リード文が長いので、表題に関してさっと読め、理解できるようなものであるとよい。

益川会長： 項目を区切る、強調するなど、読みやすくするために様式を工夫することも大切である。

吉田委員： 全てを詰め込みたいという思いは理解できるが、全体的なことを示し、後から具体的な内容について説明するという二部構成でもよいのではないか。もう少し入りやすい構成にしてもよいと思う。

益川会長： 概要版があると、中身が非常に分かりやすくなる。導入部分で、特に重要な点についてまとめておくと、詳しく知りたいところや興味をもったところに読み進めることができる。

山内委員： 当初の原案よりとても読みやすくなっている。調査結果のデータを小さくしてはどうか。根拠については見れば分かるので、もっと行を空けて見出しをつけるとよい。「社会教育委員の課題」から始まると、社会教育委員に難しい課題があるという印象を受けてしまわないか。

益川会長： 確かに、課題から始まると、当事者からすれば、自分たちが取り組んでいることに課題が多いのかという思いをもたれる方もいるかもしれないので、社会教育委員の役割を最初に示すとよい。評価が低い部分や課題もあるが、だからこそこういうことに取り組んでいきたいという方向性を示した構成にすると、当事者にとってもよいと思う。

宮崎委員： 私は、一宮市の社会委員に任命される際に、市の生涯学習課から家庭教育のボランティアは社会教育に関わるからという説明を受けて依頼され、社会教育委員を引き受けた。しかし、会議に出るまで委員が何をするのかよく分かっていなかったし、委員に大学の先生がいることにも驚いた。そういう方も多いと思うので、課題から入るよりも、社会教育委員がどのような方で構成され、どのような活動をしているかを示すとよい。アンケートの結果も大切だが、今の表し方では社会教育委員がしっかり活動できていないととらえられかねない。社会教育委員としてまだ勉強中であるため、この手引きはとてもありがたい。

山内委員： 社会教育委員は皆、現場で一生懸命取り組んでいる。委員の中には充て職の方も多くいて、委員会の構成において形ばかりが重視されているように感じる。社会教育委員には、集まって話し合う検討会や研修が必要だが、行政からは予算が確保されておらず、それができなかつたり、教育委員会と社会教育委員の連携ができていなかったりすることが課題であると感じている。現場の様子や地域住民の声を行政や学校に伝えることが仕事だと思って取り組んでいるが、なかなかそうした場がない。私は学校運営協議会にも関わっているが、学校は社会教育委員がどのような仕事をしているのか分かっていない、存在すら認識されていないことがある。社会教育委

員の立場や仕事を世間に少しでも知らせることが大切だと感じているが、実際には、様々な地域の組織で社会教育委員の名前はなかなか挙がらない。

社会教育委員の選任に際し、子供のことや文化活動の面で一生懸命に活動している方を私たちが行政に推薦し、社会教育委員に入れていただいたところ、活動がとても活発になった。膝をつき合わせて伝えたいことを忌憚なく言い合うことが大切である。行政から示された案について、表記や表現について意見する程度で終わってしまう会もあるが、そこから脱却したい。

また、社会教育委員会会議での行政の報告で、事業について昨年度より参加者が増えたという報告に対し、実人数なのか延べ人数なのか、人数が増えたとしても市民全体にどのような効果があったのか明らかにされていない。つまり、チェックが足りないのではないかと指摘したこともある。このようなことが、社会教育委員会会議の課題であると感じている。

益川会長： 社会教育委員の役割について示した後、現状の課題について述べていく流れの方がよい。研修を意図して、ポイントをしばって作られており、研修で活用できるワークについても掲載されている。社会教育委員会会議の中で、どうやって活用していくのか、普及していくのかという点についても考えるとよい。

吉田委員： 各地域で活動されている社会教育委員が、市町村の教育委員会と連携して、提言を具現化できるように、県としてもしっかりとサポートする体制が必要だと考える。社会教育委員は、自分たちの時間を使って、地域の様々ことを真剣に考えている。愛知県教育委員会として旗を振って各市町村との協議を具現化し、社会教育委員が提言した内容をしっかりと協議してもらえそうな取組にまで発展させてほしい。

益川会長： 社会教育委員の力量、モチベーションアップに向けて、どう活用していくか、県としてサポートをどのように進めていくのかという点についても表せないか検討してほしい。

益川会長： 読みやすさ、分かりやすさというところが重要である。整理すると、1点目は、全体像、重要なところを最初に見開きで掲載する。2点目は、今後の社会教育委員として何をしていけばよいのか。どんなところに留意していけばよいのかといった提言を示す。3点目は、役割について最初に示し、その後に現状について示す。

加えて、この手引きをどう活用していくのか。どう普及させていくのか。岐阜県では、機会を捉えて社会教育委員が分担して地区の研修会を回って説明した。社会教育委員が誇りと自信をもって仕事ができるように、そして社会教育がさらに推進されるという観点から検討をしてほしい。

吉田委員： インターネット上で見ることができるか。

事務局： 見ることができるようにする予定である。

益川会長： 最終的な構成や内容等について、基本的には、事務局で引き取らせてい

ただくということによろしいか。ぜひ、よりよいものをつくってほしい。
今後のスケジュールについて教えてほしい。

事務局： 10月31日に開催する社会教育委員交流会で手引きについて社会教育委員から御意見をいただく。また12月に第2回ワーキンググループを開催し、2月に第2回社会教育分科会で、改めて修正案をお示ししたい。